

日本演劇教育連盟 FAX:(03)3983-6788



「ソシオドラマ」 入門 ～社会問題を「自分事」に～

おのえ あけよ
尾上明代
立命館大学大学院

講師プロフィール

アナウンサーとしてNHK・テレビ朝日等の番組を担当後、文化庁芸術家在外派遣研修員（演劇部門）として渡米。北米ドラマセラピー学会公認ドラマセラピスト（国内第一号）・同学会認定トレーナー（日本人第一号）となり、教育と臨床（児童養護施設・精神科クリニック・依存症回復施設など）に従事してきた。国内外での学会発表、またドラマセラピーを応用したコミュニケーション力向上・ストレス軽減を目的とした研修・講演多数。

立命館大学人間科学研究科 教授
東京大学教育学部 非常勤講師
著書：心ひらくドラマセラピー（河出書房新社）
子どもの心が癒され成長するドラマセラピー（戎光祥出版）ほか

連絡先：ドラマセラピー教育・研究センター
dtercen@yahoo.co.jp

『分かり合えない』 から始まる、 即興を使っでの関係づくり

りょーちん

即興パフォーマンス集団ロクディム

講師プロフィール

即興パフォーマー/役者/即興芝居講師
<http://ryochin6dim.com/>

即興コメディパフォーマンス集団「ロクディム」メンバー。
親子参加即興コメディを行うユニット「mofmof(もふもふ)」、「演歌魔術師・赤羽根吾朗」、「愛の人・バス子」など数々のプロデュースなど行う。ワークショップ(WS)を全国で数多く開催し、小・中・専門学校などでも授業を受け持つ。
また、子ども向けや親子向けの WS も各地で勢力的に行っている。
日本のインプロ(即興演劇)の第一人者、今井純に師事。

役者のための即興芝居ワークショップ
児童館職員のための即興芝居ワークショップ
小中学校にてコミュニケーションワークショップ
親子で楽しむ即興芝居ワークショップ
企業研修

本講座の内容

J. L. モレノが創始した「ソシオドラマ」という社会臨床的なドラマ手法を用い、社会のさまざまな問題をドラマ化して共有し、多視点からのより深い理解を得ることを目的とします。

ソシオドラマは、身近な家族、学校、職場などの問題から大きな災害や戦争まであらゆるできごと、意識・感情などを扱うことが可能なアプローチです。「人が変わるためには感情、頭、身体の3つすべての要素にホリスティックに働きかけなければいけない」というモレノのことば通り、ドラマ後、1人1人の何かが変容し、それが社会の変化に繋がりをうることを体感していただく意図と願いがあります。

まず、ゲームを通して身体と心と頭を心地よくほぐしゆるめることにより、安全な場を作ることから始め、次に演じることに慣れるワークを楽しんでいただきます。後半は、参加者が探索したいテーマを取り上げ、ソシオドラマの特殊な技法を使いながらさまざまな可能性を探索し、ディスカッションをします。

動きやすい服装でご参加ください。準備していただくものはありません。

定員25名

本講座の内容

・目的

相手とわかり合えないところから始まるからこそ、「自分が思ったこと、気づいたこと、感じたこと」を素直に表現できること。「相手が言ったことや やったことを、見て聞いて、受け取ること」ができることにトライしていきます。
そして、伝えたいつもりになるのではなく、わかったつもりになるのではなく、お互いが共有しあえることを目指し、ワークしていきます。

・大まかな進行内容

自己紹介をしてから、皆さんの名前を使ってゲームを行います。まずは、うまくいかないことや失敗することに慣れましょう。そして、連想することを相手とやります。相手が言って浮かんだことを伝えます。
相手も、聞いたことから浮かんだことを言い、言葉でキャッチボールしていきます。
その後、短いセリフからどんなことを浮かぶのか、最後には即興でやり取りをして演じてみることにチャレンジしていきます。

定員20名



ジェンダーバイアス × インプロ

IMPRO KIDS TOKYO

下村理愛・我妻麻衣

講師プロフィール

下村理愛

IMPRO KIDS TOKYO代表理事・群馬大学医学部非常勤講師
筑波大学・筑波大学大学院教育研究科卒業。
大学院在学中は東京学芸大学高尾隆ゼミにて演劇教育を学びながら、インプログループSAL-MANEのメンバーとして舞台出演・カナダやアメリカへの留学など精力的に行う。
卒業後は株式会社LITALICOにて約4年間、発達障害のあるお子さんのべ3000人のサポートを行う。

我妻麻衣

IMPRO KIDS TOKYO代表理事 / 俳優 / 演技講師
宇都宮クラーク高等学院、UBDCアート＆スポーツ専門学校など、非常勤講師として学校での演技指導多数。
コーチとして国内外で活躍する今井純氏のアシスタント、即興パフォーマンス集団:Dのパフォーマー、芸能事務所での活動を行う。

本講座の内容

私たちIMPRO KIDS TOKYOは、「予想外の未来をみんなで創る」をミッションに、インプロ（即興演劇）を応用したコミュニケーションワークショップ行っています。

主な事業内容は、親子で通う習い事事業・学校訪問事業・教育関係者向け研修の3つです。
キース・ジョンストンやヴァイオラ・スポーリンの理論を学んできたインプロバイザー17名とプロボノのみなさんで活動しています。
大切にしていることは、大人も子どもも一人の人間であること、自分も相手も輝くコミュニケーションです。

今回のワークショップでは、過去に子どもたちで行ったジェンダーバイアスについてのインプロワークをご紹介します。みなさんと無意識の偏見や振る舞いについて考えて行けたらと思っています。

今回のワークでは、ジェンダーのみにとどまらず、バイアスに紐づく発言で相手の可能性を奪ってしまっていないかを振り返ったり、相手の可能性を広げるための関わり方も併せてみなさんと探究できればと考えております。

定員20名



あそびから表現へ ～表現あそびでこどもは育つ～

多田純也

ただじゅん企画

講師プロフィール

岩手県出身。民俗芸能歌舞団、劇団風の子をへて独立。
「ただじゅん企画」主宰。全国の保育園、児童館、こども劇場などで、ひとり舞台やユニットでの作品上演。
客演、こどもイベントスタッフなど、こどもを対象とした舞台活動。演劇的スキルを使った表現あそびや和太鼓あそび、また、手作りおもちゃなど、あそびと表現の活動でこどもたちと交流する。保育士や教師むけの表現あそび講座も多数。

おもな上演作品「おはやし劇場だだすこだんだん」「まめっちょ劇場び〜び〜どうどう」「おはなしあそび☆たんころりん」「とっぴんぱらりん座」「つるかめ大吉一座」など
ワークショップ活動「表現あそび・あそびっこ！」

日本演劇教育連盟会員
全国児童青少年演劇協議会運営委員

本講座の内容

実際に身体を動かす表現あそびの講座です。主に幼児から低学年での活動を想定していますが、なによりも参加者の皆さん自身が楽しく心と体を開く講座です。一緒に遊びながら、考え合いたいのは以下のようなことです。

- あそびは自分が主人公。あそびとは楽しく、自由に、臨機応変に。本来やりたくなったら自分で始めて、つまらなければやめられる、自分でルールを変えることができる。主体的、能動的な仲間とのかかわりがあそびの本質。
- 競争や大人の評価ではない、勝っても負けても間違っても楽しい、一人一人がちがう事が素晴らしいと認め合う事ができるのがあそびであり、表現活動。
- あそびは胸、からだを開き上を向きコミュニケーションしやすい身体を創る。
- 表現教育とは子ども自身に発見してもらうもの。
- 表現したくなる楽しく自由な空気の中で感じたことを人に伝えることが表現。
- 芸術とあそびは感性が大事な同意語。「すべてのアートの根っこはあそび」
- 生の芸術を鑑賞することの意味。演劇、音楽、伝統芸能の力。

定員20名



踊りで考察 「集団の自分、個人の自分」

アオキ裕キ
アオキカク

講師プロフィール

振付家。タレントのバックダンサー業などを経て「日々生きることに向き合わざる得ない体」を求め、2005年より路上生活経験者を集めたダンスグループ「新人Hソケリッサ!」を開始。個人しか生み出せない体の記憶を形成した踊り、その作品は定評を得る。

2004NEXTREAM21最優秀賞受賞、
コニカミノルタソーシャルデザインアワード
2016グランプリ受賞。
2020年3月、活動を追ったドキュメンタリー映画「ダンシングホームレス」全国上映中。

本講座の内容

「講師紹介」…講師数名、その場で描いた抽象画のイメージから生み出した踊りを見せます。
WS説明。
「ウォーミングアップ」…柔らかい、硬い体の使い方、大きい、小さいなど、ベースとなる身体の使い方。
「言葉のイメージ」…オノマトペなどによる言葉のイメージで身体を動かしてみます。
「絵のイメージ」…講師が描いた絵（抽象的なクレヨン画）のイメージを形や動きにします。
「動きのキャッチボール」…向かい合う相手の動きを真似て、自分の動きを相手に真似てもらい、他者の身体を観察します。

嫌なことはやらずに、身体と心を合わせることをまず大切にします。いわゆる振り付けでない、即興的に身体を動かしてみる中で自分の身体の反応を観察。また、個人で動く場合、集団で動く場合など、自身の身体自由度不自由度を観察。正解や理想を持たず、今ある自身の身体と出会うことを大切に、その中で見える現代社会と身体の関係性を問いたいと思います。

定員20名



Photo by Chihiro Okamoto (岡本千尋)



Photo by bozzo

「私が大切、あなたが大切、みんなも大切」 ～演劇づくりからみえること～

すずきこーた
演劇デザインギルド

講師プロフィール

ワークショップファシリテータ・俳優。
演劇的手法を様々な場面に取り入れたワークショップを数多く企画・進行。単に表現することだけでなく、考える・伝える・受け取る・発見することなどを大切にしたいワークショップを数多く進行。
世田谷パブリックシアター（公益財団法人せたがや文化財団）や、穂の国とよはし芸術劇場PLAT（公益財団法人豊橋文化振興財団）と共に、公立の小中学校でのワークショップを年間を通じて行っている。多文化共生やまちづくりの場でのワークショップも多い。
私立海城中学校のコミュニケーションの授業での先駆的な手法は高い評価を受けている。
日本だけでなく、メキシコ（高校生）、インドネシア（紛争被害にあった子どもたち）などともワークショップを行う。
目白大学非常勤講師
（一社）日本演劇教育連盟理事。

本講座の内容

学校や会社、社会には、いろんな人がいます。犬が好きな人と嫌いな人、納豆が好きな人と嫌いな人、ワクチンを受けた人と受けてない人…。それはもう、様々です。様々な人が、同じ教室で、同じ会社で、同じまちで暮らしていて、そして全てのの人に幸せになる権利があります。しかし自分の幸せを優先するために、他者を不幸にしてはなりません。納豆を好きな人が、納豆を嫌いな人に「幸せになるから食べろ!」と強制しても、幸せになれるはずがないのです。反対に他者を幸せにするために自分が不幸になることも、まったく良いことではありません。

私の考える演劇づくりでは、多様な価値観を互いに尊重し、「意見が重なりあう妥協点を見つける」だけでなく、「様々な意見を一つの作品にのせる方法について合意形成」することを大切にします。クラスづくりにも通ずるところがあります。自分を大切に、例え意見が違っても他の人に認めてもらえるからこそ、子どもたちは笑顔でいられるのです。

コロナ禍での生活が長くなるにつれ、対面の良さ（オンラインではできないこと）、オンラインの良さ（オンラインだからできること）を、多くの方が感じ発見されたでしょう。だからこそ「共に幸せになる」という目標を忘れずに、対面の時もオンラインの時も活動することが大切です。方法は違って当たり前に変えないからです。

本講座では、「対面でのドキドキ感、ワクワク感」をオンラインでも楽しむことを試みたり、コロナ以前・コロナ禍での私の対面の活動のを紹介したり、「私の演劇づくりでおこなっている意図」をお伝えしたりして、参加者の皆さんと一緒に演劇づくりを通してできること、今できること・この先できることを考えたいと思います。

子どもたちの笑顔を思い浮かべ、あまり構えずにご参加下さると嬉しいです。一緒に楽しみましょう！ 定員20名

